

カード等による意思表示（4編）

私は、はじめ脳死であればこの先死んでしまうことは分かっているため提供しても良いのではないかと考えていたが、家族の立場であればもう少しそのまま置いて欲しい、身体に傷を付けて欲しくないなど、その時の自分の立場から考えるため、人それぞれの答えは違ってくるのではないかと感じた。

私は、家族と意思表示カードについて話したことがある。私は提供してもよいと思っていた。しかし、家族から「しない」と言われたため、現在カードに記入することはできていない。自分の中でまだ迷っている。提供することにより多くの人々が助かるということは分かっている。これから現場に出て提供を待っている患者さんに会うこともあると思うが、看護師として援助していくに当たり、精神的サポートは必要であると考え。患者・家族の傍らに寄り添いサポートしていくことが必要であると学ぶことができた。

今までに何度か臓器移植について授業があり考える機会があった。もし、自分の家族が脳死と判定された時、その時、私は提供できないだろうなと思っていた。自分がもしそうなった場合は、臓器提供したいと考えていた。しかし、実際私は、意思表示カードに記載していない。そう思いつつも勇気がないから未だ記入できていないのだろうと思う。

私はこれまで何度か「臓器移植」に関する講演を受け、臓器移植について考えさせられる機会があった。そして、その都度、生前から自分の意思を表示しておくことの大切さを知ったため、意思表示カードに自分の意思を示しておくことにした。しかし、今回の講義を受け、単に自分が意思表示カードを記入しておくだけでなく、一番大切なのは家族と臓器提供について話をし、直接家族に意思表示しておくことだと分かった。もし、自分の家族が急な事故などで脳死状態になり、そしてそのような中、臓器提供の意思を示したものが見つかったとしても、私

はその家族の意思を受け入れることが出来ないと思う。「そんなこと一言も聞いたことないのに・・・。」と思い、動揺すると思う。そのように、自分が残された家族の立場になって考えてみると、元気な時から家族内で臓器提供について話し合う機会を持ち、お互いの意思を確かめ合っておくことが大切だということに気付いた。とても深いことに気が付いた。

移植が増えていく時代に大切なことは、生きている間に家族としっかり話し合っておくことだと思った。現在の日本は、意思表示カードに意思を表示することができ、以前に比べると身近に考えることができる。しかし、元気な時に脳死や臓器移植について話し合うことは少ないと思う。私も、これを機にもう一度自分だったらどう選択するのかを考える必要があると感じた。臓器移植は待っている人にとって、命をつなぐ大切な選択である。移植を受けて今は元気に生活されたり、母になっておられる方の話を聞いた。移植の成功によって生活の質はすごく高まる。授業の最初に「移植は、提供する人と受ける人の両方の気持ちを切にしないといけない。」と聞いたが、授業が終わるとこの言葉はとても深いことに気が付いた。

